

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 順天堂大学大学院 医学研究科 呼吸器内科学
前任准教授 瀬山 邦明 先生

2. 演 題 リンパ脈管筋腫症
-トランスレーショナルリサーチがもたらした難病
の医療変革-

3. 日 時 平成30年2月27日(火)17:00～19:00

4. 場 所 3号館8階 保健衛生学科講義室3

5. 要 旨

リンパ脈管筋腫症(LAM)は、異常な平滑筋様細胞(LAM細胞)が肺や体軸リンパ節で増殖し病変内にリンパ管新生を伴う腫瘍性疾患である。有病率は100万人あたり約1.9-4.5人と推測される稀少疾患である。妊娠可能年齢の女性に発症し、LAM細胞の増殖により肺は破壊され重症例では呼吸不全となり肺移植が必要となる難病である。常染色体優性遺伝性疾患である結節性硬化症の肺病変として発症する例と、LAM単独で発病する例がある。病因不明の過誤腫性疾患と認識され、確立された治療法はなく生命予後は診断から10年とされていた。しかし、1990年代後半からLAM細胞におけるTSC2遺伝子異常の発見、病態研究の発展により分子標的候補薬の同定、2011年に国際協同治験(MILES試験)により有効性が確認された。トランスレーショナルリサーチの成果によりもたらされた医療の変革とその患者へのインパクトを報告する。

担当分野 硬組織病態生化学分野 担当者 渡部徹郎(内線 5449)